

八幡地区の取り組み

八幡地区では、大池・姨捨・郡区などで水路の清掃などが行われ、平成14年からホタル鑑賞会が行われるようになりました。

更級川水系をはじめ、郡・峯・姨捨の各頭無し（清水）を水源とする各水系にもホタルが舞い、年毎に飛翔地が増えています。

古代からの優れた利水施設や棚田の水路網があって、更に標高800mの千曲高原から標高370mの郡・辻区の里地までの標高差430mに及ぶ地域で、ホタルの生息地としては、まれに見る広域発生地です。20箇所で見られます。

各区のホタル愛好者の情報交換の場を創ろうとの動きも出始めています、この機に先人から受け継いだ優れた利水施設を保全・改善をし、水質維持・復元に取り組みたいものと思います。

(仮称)八幡郷の蛍の会発起人 青木 亨



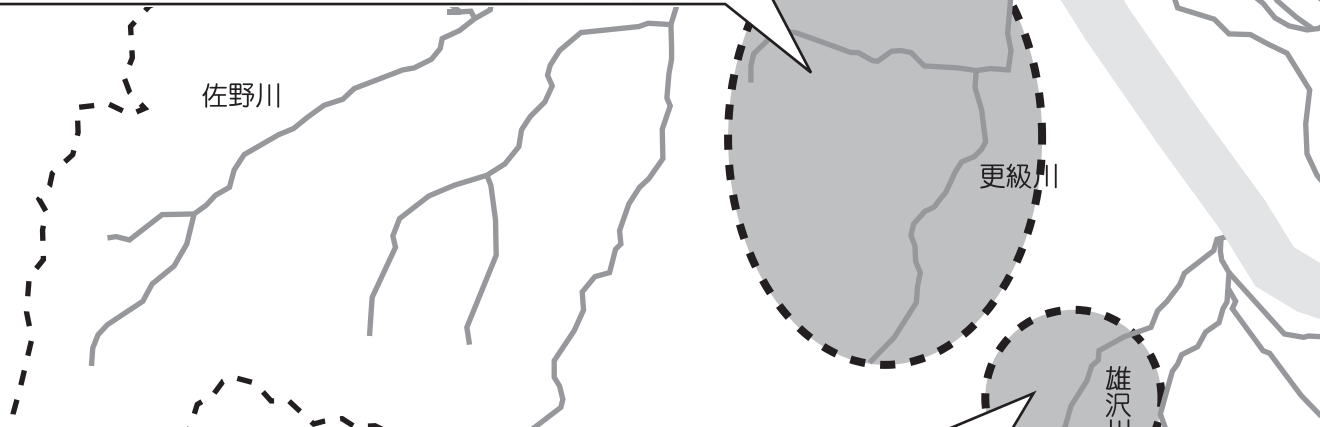
姨捨棚田のホタルの里



古屋敷ホタルの里



郡宮川のホタルの里



羽尾地区の取り組み

ホタル舞うふるさとが帰ってきた —地域の人々の力によって—

戦前から戦後の昭和20年代後半頃までは、羽尾を流れる雄沢川、湯沢川、そしてこの川に流れ込む新田沢、戸屋沢、藤ノ木沢の各小川にはきれいな水が流れていた。この川周辺の人々は、鍋、釜、食器類はもとより、その他一切の洗いものはこの川でしながら、川の汚れにはいつも気をつけて生活していたものである。（注：昔は風呂の排水、勝手の排水を肥溜に捨て、下肥の熟成に利用し、肥料として田畑に還元していた。）したがって、雄沢川をはじめ、各小川の水辺には、夏はホタルが乱舞し、宵闇の中にほたる狩りに興ずる子供たちの声で賑わったものである。

しかし、戦後日本経済の発展に比例して河川の様相は変化していった。洗濯機の普及にともなう洗剤使用の排水、各家庭の風呂、台所改善にともなう排水の河川への流出。また、水田の空中防除による薬剤、水田の除草剤の雨水にまぎれての流出等、これらに起因して河川は徐々に汚染されていった。

最初に、カジカ、ヤマメがいなくなった。次にドジョウ、フナ、ハヤ（ウグイ）が姿を消した。ジンケン（オイカワ）も雄沢川、湯沢川にのぼってこなくなった。サワガニの姿を見つけるのが大変になり、ホタルも舞わなくなった。夏には、汚濁した川水が流れ、ところによっては悪臭さえ鼻につくようになった。まったく雄沢川は死んだ川になりつつあった。

そこで地域の先輩たちは立ち上がった。区長、区議員、分区長を先頭に雄沢川清掃に着手した。それは、4月から10月までの第一日曜日の朝6時から羽尾4区区民（各戸必ず1名）総出により担当指定地域の河川清掃作業を実施し、今日まで継続されている。また、各家庭への合併浄化槽普及について、町役場と協力して普及の推進に努力された。他方、婦人の生活改善グループは、家庭で発生する廃油による「手作りせっけん」の製造普及に努めた。農業団体は、空中農薬散布の中止を決断して実行に移した。これらに平行して、昭和64年、有志一同は相ばかり「農用集落排水事業」を羽尾地域に導入することを決議し、平成5年に完成、ここによく待望の「集落排水事業」が共用開始となった。

以来、12年有余、徐々にあるが雄沢川を始めとして各河川はよみがえりつつある。そして、平成8年頃から雄沢川水辺にホタルの姿が見られるようになり、以来年々その個体数が増加しつつある。まだ、カジカ、ヤマメの姿は戻ってこないし、ハヤ、オイカワは雄沢川にのぼってこないけれど、サワガニをたくさん見かけるようになり、ドジョウもたまに見かけるようになった。

かくして、地域の人々の協力と努力により、羽尾の里は自然の豊かさを取り戻しつつある。今年もまたホタルはふるさとを愛する人々の心を象徴するかのよう愛の光をともしてくれることであろう。

羽尾地区 西沢直人

冠着山 (姨捨山)

八頭山

森地区の取り組み 杏の里ほたるの会を紹介します

杏の里に蛍が舞う。老いは蛍にまつわる思い出を語り、子供たちは蛍に親しむ。

その交流の場として、ホテル観賞とミニコンサートの夕べを毎年7月の第1土曜日に開いている。会員の手作りが自慢だ。そして、この素晴らしい環境を守ろうと、春は森こども会と共に、秋は会員たちが沢山川の清掃奉仕活動を実施している。

杏の里ほたるの会会長 北島 功



森こども会との沢山川の清掃活動

内川地区の取り組み 内川のホタルを復活させる会

内川は昔からゲンジボタルとヘイケボタルの群生地として有名でした。明治44年には、内川同士会が螢参籠（三万匹）を皇室に献上しておりますし、昭和13年～40年までは「天然記念物内川のホタル」の名前で長野県の指定も受けていました、6月中旬の乱舞する時期には、「ほたる橋」周辺は多くの見物客で賑わいました。

あのホタルをもう一度この内川に舞い戻そう、ホタルのすめる美しい内川を作ろうと、我々は6年前に立ち上がり、ホタル復活活動をしています。

内川のホタルを復活させる会 中村光昭

協和地区の取り組み 地域みんなでホタルを見守る

上山田協和地区で、昔、消防団で活動を共にした仲間が、会長鹿田正彦さんを中心に10数名集まって2年ほど前から「ホタルを見る会」（特に名称無し）を組織し、ホタルのすめる沢づくりに取り組んでいます。

ホタルの見られる寺沢川は、平成16年の台風によって大きな被害を受け、ホタルが見られなくなるのではと心配しました。しかし、周辺の田んぼの脇を流れる小せぎは大きな被害を受けなかったためか、今年も200匹あまりのホタルが舞う姿を見ることができました。

今年は上山田八坂地区全体にこの活動を知ってもらおうと、「ホタル祭り」を呼びかけ、地域の人が集まってホタルを見ることができました。近くの戸倉上山田温泉にも声をかけ、宿泊客の方がホタルを見にきたりもしました。

今後も、この取り組みを続け、地域みんなでホタルを見守っていきたいと思っています。

協和地区 永井素子



寺沢川を舞うホタル 撮影：宮原一夫氏